

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	筑波大学
連携大学名	茨城県立医療大学
事業名	多職種連携医療専門職養成プログラム

① 本事業終了後の達成目標

	本事業終了後の達成目標
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学部交流プログラムが運用され、両大学の教育課程の必修科目として定着していること。 ・OSCE/OSLEが臨床実習前の評価システムとして定着していること。 ・OSLEの試行による評価方法を臨床検査技師教育に関する全国的な規模での提案により、全国的な規模での展開の基盤を提供していること。 ・履修証明プログラム「多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム」が継続的に履修生を獲得し、専門職卒後教育システムとして関係する機構から評価されていること。 ・履修証明書を得たメディカルスタッフが優れた実習指導能力を発揮して臨床実習を指導していること。

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
インプット・プロセス (投入、入力、活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・OSLEの試行(第1回)医療科学類35名対象 ・合同公開講座の開催 ・学部交流プログラムの実施(延べ4回、両大学で120名の参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・OSLE(第2回)医療科学類3年生37名対象 ・合同公開講座の開催 ・学部交流プログラムの実施(延べ4回、両大学で120名の参加) ・履修証明プログラム、履修生受入れ(臨床検査技師5名、診療放射線技師3名、理学療法士3名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・OSLE(第3回)医療科学類3年生37名対象 ・合同公開講座の開催 ・学部交流プログラムの実施(延べ4回、両大学で120名の参加) ・履修証明プログラム、履修生受入れ(臨床検査技師5名、診療放射線技師3名、理学療法士3名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・OSLE(第4回)医療科学類3年生37名対象 ・合同公開講座の開催 ・学部交流プログラムの実施(延べ4回、両大学で120名の参加) ・履修証明プログラム、履修生受入れ(臨床検査技師5名、診療放射線技師3名、理学療法士3名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・OSLE(第5回)医療科学類3年生37名対象 ・合同公開講座の開催 ・学部交流プログラムの実施(延べ4回、両大学で120名の参加) ・履修証明プログラム、履修生受入れ(臨床検査技師5名、診療放射線技師3名、理学療法士3名) ・e-Learningコンテンツの全面改訂と著作権の筑波大学への委譲(60時間分)
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム運営委員会、ワークショップ委員会、合同公開講座委員会、OSLE委員会、履修証明プログラム委員会、広報委員会を組織 ・外部評価委員会の開催 ・広報活動(HP開設・パンフレット・ポスター作製) ・年次報告書の作成とHPからの公表 ・履修証明プログラム用e-Learningコンテンツの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム運営委員会、ワークショップ委員会、合同公開講座委員会、OSLE委員会、履修証明プログラム委員会、広報委員会を組織 ・外部評価委員会の開催 ・広報活動(HP随時更新・パンフレット改訂・ポスター作製) ・年次報告書の作成とHPからの公表 ・OSLEの試行結果の関連学術集会での発表 ・CoMSEPの取り組み全体を関連する教育学会において発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム運営委員会、ワークショップ委員会、合同公開講座委員会、OSLE委員会、履修証明プログラム委員会、広報委員会を組織 ・外部評価委員会の開催 ・広報活動(HP随時更新・パンフレット改訂・ポスター作製) ・年次報告書の作成とHPからの公表 ・OSLEの試行結果の関連学術集会での発表 ・CoMSEPの取り組み全体を関連する教育学会において発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム運営委員会、ワークショップ委員会、合同公開講座委員会、OSLE委員会、履修証明プログラム委員会、広報委員会を組織 ・外部評価委員会の開催 ・広報活動(HP随時更新・パンフレット改訂・ポスター作製) ・年次報告書の作成とHPからの公表 ・OSLEの取り組みを関連学術集会での発表 ・CoMSEPの取り組み全体を関連する教育学会において発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム運営委員会、ワークショップ委員会、合同公開講座委員会、OSLE委員会、履修証明プログラム委員会、広報委員会を組織 ・外部評価委員会の開催 ・広報活動(HP随時更新・パンフレット改訂・ポスター作製) ・5年間の活動報告書とHPからの公表 ・平成31年度以降の取り組みの公表・広報 ・OSLEの取り組みを関連学術集会での発表 ・CoMSEPの取り組み全体を関連する教育学会において発表。

アウトプット (結果、出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> OSLE参加者数:医療科学類3年次生35名 合同公開講座参加者200名 学部交流プログラム(延べ120名の学部生x計4日) プログラムのパンフレット等、教育機関、関連病院への発送(計400通) 	<ul style="list-style-type: none"> OSLE参加者数:医療科学類3年次生37名 合同公開講座参加者200名 学部交流プログラム(延べ120名の学部生x計4日) 教育関係学会における発表(3回/各分野1回) 	<ul style="list-style-type: none"> OSLE参加者数:医療科学類3年次生37名 合同公開講座参加者200名 学部交流プログラム(延べ120名の学部生x計4日) 教育関係学会における発表(3回/各分野1回) 	<ul style="list-style-type: none"> OSLE参加者数:医療科学類3年次生37名 合同公開講座参加者200名 学部交流プログラム(延べ120名の学部生x計4日) 教育関係学会における発表(3回/各分野1回) CoMSEPの成果の報告書・論文化 	
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会の開催 外部評価委員から事業評価 平成27年度からのe-learningによる「履修証明プログラム」の準備の完了 第1回OSLEの実施後のアンケートの実施とFDの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会の開催 外部評価委員から事業評価 e-learningによる「履修証明プログラム」の実施 スクーリングにおける講義をe-Learningコンテンツとしてアーカイブ化 履修証明プログラム(H28年)のカリキュラム改訂 第1回OSLEの実施後のアンケートの実施とFDの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会の開催 外部評価委員から事業評価 e-learningによる「履修証明プログラム」の実施 スクーリングにおける講義をe-Learningコンテンツとしてアーカイブ化 履修証明プログラム(H29年)のカリキュラム改訂 	<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会の開催 外部評価委員から事業評価 e-learningによる「履修証明プログラム」の実施 スクーリングにおける講義をe-Learningコンテンツとしてアーカイブ化 履修証明プログラム(H30年)のカリキュラム改訂 	<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会の開催 外部評価委員から事業評価 e-learningによる「履修証明プログラム」の実施(全面改訂) スクーリングにおける講義をe-Learningコンテンツとしてアーカイブ化 H31年度以降の取り組みの継続性・発展性の公表
アウトカム (成果、効果)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> HPを通じての「合同公開講座」参加者(200名) 3専門メディカルスタッフの交流 	<ul style="list-style-type: none"> HPを通じての「合同公開講座」参加者(200名) 3専門メディカルスタッフの交流 関連教育学会における本プログラムの取り組みの発表(3回) 	<ul style="list-style-type: none"> HPを通じての「合同公開講座」参加者(200名) 3専門メディカルスタッフの交流 関連教育学会における本プログラムの取り組みの発表(3回) 	<ul style="list-style-type: none"> HPを通じての「合同公開講座」参加者(200名) 3専門メディカルスタッフの交流 関連教育学会における本プログラムの取り組みの発表(3回) 	<ul style="list-style-type: none"> HPを通じての「合同公開講座」参加者(200名) 3専門メディカルスタッフの交流 関連教育学会における本プログラムの取り組みの発表(3回) プログラム5年間の成果の報告書作成、論文化
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の幅広い周知 各関係専門職機構の卒後教育への組み込み開始 臨床実習前のOSLEによる臨床実習への意識の向上 多職種の学生の交流による「チーム医療」への理解の深化 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の幅広い周知と関連専門組織との連携 各関係専門職機構の卒後教育への組み込みの促進 臨床実習前のOSLEによる臨床実習への意識の向上 多職種の学生の交流による「チーム医療」への理解の深化 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の幅広い周知と関連専門組織との連携 各関係専門職機構の卒後教育への組み込みの促進 臨床実習前のOSLEによる臨床実習への意識の向上 多職種の学生の交流による「チーム医療」への理解の深化 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の幅広い周知と関連専門組織との連携 各関係専門職機構の卒後教育への組み込みの促進 臨床実習前のOSLEによる臨床実習への意識の向上 多職種の学生の交流による「チーム医療」への理解の深化 	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の目標の理解と意義の周知と関連専門組織との連携 各関係専門職機構の卒後教育への組み込みと評価 臨床実習前のOSLEによる臨床実習への意識の向上 多職種の学生の交流による「チーム医療」への理解の深化

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業期間中は、PDCAサイクルによる工程管理を行った上で、全国の模範となるよう体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成につながる取組や体制を構築すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・学内レベルではステークホルダーのアンケートを踏まえて、FDを実施してカリキュラム内容の改善に努め、関連する学術集会、専門職教育機構での取り組みの紹介を通じて、議論を公にして全国的な標準化の基盤となるようにする。 ・関連専門職の卒後教育制度(ポイント制)への組入れを積極的に働きかけ、このプログラムへの多職種の参画を促す。 ・外部専門委員の意見を踏まえて、現場の求める卒後教育の一翼を担えるようなプログラムとしての改良を重ねる。
②	事業の実施に当たっては、学長・学部長等のリーダーシップのもと、責任体制を明確にした上で、全学的な実施体制で行うこと。また、地域医療の充実やチーム医療の推進の観点からも、学外の有識者にも積極的に参画いただき、事業の構想を実現できる体制を構築すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施責任者(医学群長)のもと、両大学のメンバーで構成する「運営委員会」を組織している。取り組みごとの委員会では両大学の関係者が協議しながらプログラムを推進・改良する体制を構築した。 ・プログラムでは「履修証明プログラム」は筑波大学の学群教育会議の承認と、筑波大学からの自己資金の拠出を得て実施する。 ・e-Learningは筑波大学教育クラウド室の支援を受けて準備を進めている。 ・学外、特に、3専門職のには積極的に働きかけを行っており、「合同公開講座」が交流の場となるとともに本プログラムの情報発信機会となるようにしている。
③	事業期間終了後も各大学において事業を継続することを念頭に、具体的な事業継続の方針・考え方について検討すること。また、多くの大学に自らの教育改革を進める議論に活用してもらうため、選定大学が開発・実践する教育プログラムから得られる成果等を、可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・既に本プログラムのHPを通じて広報を開始しているが、成果は関係する学術集会などでも発信していく。 ・平成31年度以降にすべての取り組みが継続されるようにする。特に「履修証明プログラム」は、支援を受けている機関に蓄積するコンテンツのアーカイブ化、平成30年度に実施するe-Learningコンテンツの全面改訂と著作権の委譲によってメディカルスタッフのe-Learningとしての信頼を得るように努力する。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(改善を要する点、留意事項)	対応方針
e-Learningコンテンツの内容が不明確なため、充実が望まれる	筑波大学に「履修証明プログラム」(120時間)を開設するに当たって、筑波大学大学にはこのプログラムの講義内容を明確に説明し、学群教育会議の承認を得た。また、HPを通じて平成27年度のコンテンツを公開し、履修生の募集を開始する(平成27年2月)。経年的にはコンテンツの蓄積によって、選択科目を設けるようにする。平成31年度以降のe-Learningを中心とした履修プログラムの継続を目指して、平成30年度には、コンテンツの全面改訂、著作権の委譲を実施する。
目標設定及び評価指標の設定がやや不明確であり、より具体化されることを期待したい。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査技師教育におけるOSCE、OSLEをプログラム終了時には専門職養成課程のスタンダードとなるように、専門職教育の関連学術集会、国立大学臨床検査技師教育協議会、日本臨床検査技師教育協議会で成果を発表してゆく。 2. 医療専門職の卒後教育プログラムの一部として利用していただけるように働きかける。履修証明が高い付加価値を有するように働きかけるとともに、実際の履修証明取得者のその後の活躍を支援する。 3. 履修証明プログラムが支援終了後、e-Learningを中心としながら、継続して蓄積するコンテンツによって選択科目を多く有した卒後教育プログラムとして自立させる(H31年度以降)。 4. 支援終了時に当たる平成30年度末には、履修証明書を取得したメディカルスタッフが少なくとも1名以上、両大学の臨床実習病院の80%以上の病院で臨床実習を担当するようになっていくことを目標とする。
多職種連携医療専門職養成プログラムとして、メディカルスタッフが一堂に会してできるプログラムを実施することで、多職種連携が更に活性化することを期待する。	特に、年一度実施する「両大学合同の公開講座」は専門性の異なるメディカルスタッフの交流の機会となるように発展させていきたい。プログラム支援期間の終了後(H31年度以降)も、両大学の持ち回りで公開講座を継続させる。